

よろずは

平成二五年

九月号

歌碑めぐり 5

今回も万葉文化館の万葉庭園に建つ歌碑をご紹介します。

皆人の 命もわれも み吉野の 滝の常磐の 常ならぬかも

(訳) すべてのこの人たちの命も私の命も、み吉野の激流にある岩石の

ように、変わらずあつてほしい。

(巻六・九二二)

神亀2年(725)、吉野離宮への行幸において笠金村が詠んだ歌です。吉野川の激流にあつて姿形を変えない岩石のように、人々の生命が不変であることを願っています。吉野を詠んだ万葉歌には、山紫水明・風光明媚な風土を褒め称えたものが多くみられ、今と変わらず豊かな自然が魅力だったようです。歌碑の揮毫者は近藤撰南氏です。石の舞台がある広場のそばに歌碑が置かれていますので、ぜひ探してみてください。

【万葉古代学係】



タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。